
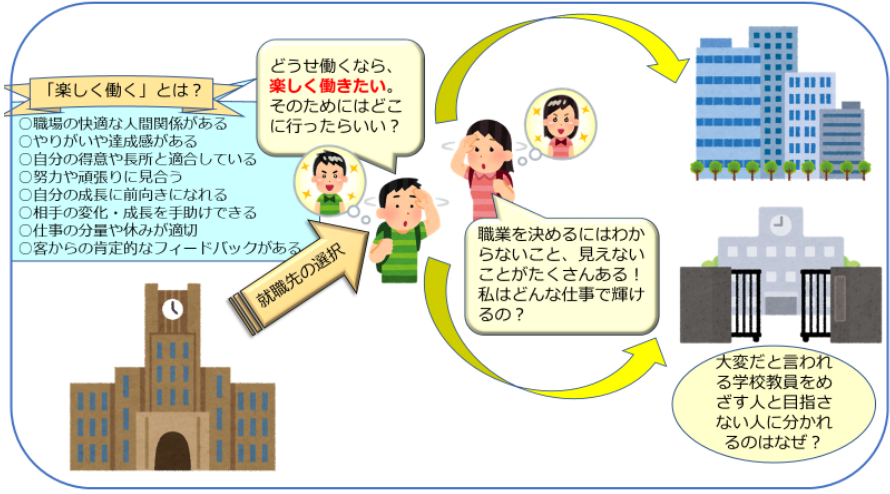


<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 大学生のキャリア選択の遅延</p> <p>□ 教員養成学部生の教職選択のメカニズム</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 進路意思決定 ■ 青年心理学 ■ 教育心理学 ■ 大学生の職業選択 ■ 教育学部生と教職 ■ 生徒指導 	<p>職業の意思決定は数ある意思決定の中でも難しいものです。それは、選択肢が数多いうえに、職場の人間関係のように偶発的にしか決まらない、事前には見通せない要素が多く、さらには「良い選択」の条件が人によって異なるためです。ただでさえ難しい意思決定をどのように支援していくべきかを考えるとともに、そのメカニズムを少しでも明らかにしていこうとしています。</p> <p>意思決定の遅延を研究していた当初の問題意識は「なぜ適切な時期までに“決められない”か」でした。しかし上述のようにただでさえ困難な意思決定ですので、「なぜ早々に“決められる”か」という問題設定の方が、決められない人への支援のためにも重要であると考えようになりました。上記の「代表的な研究テーマ」に書いた第2のテーマも、そこつながっています。教職は、子どもにとっても馴染みがある職業ゆえに、大学・学部選択の時代から教職に就くと決めている人がいる一方で、教育学部に入學した少なくない割合の人たちにおいてその志望が揺らぎます。これは青年心理学の点から自然なことではあるのですが、多くの人が教育実習などの実地経験を経て、教職を最終的に目指すのです。特に近年、働きすぎや保護者対応などの難しさや大変さが喧伝されている教師という職業に、なぜ就きたいという気持ちが強くなるのか、その一方で、その大変さゆえに志望をやめる人たちがいます。そこにはどのようなメカニズムがあるのでしょうか。</p> <p>教育学部の教員であることから、以上のような問題意識で研究することが多いですが、教職以外の進路意思決定、あるいは意思決定一般の問題にも興味をもっています。前の段落で述べた教職への意思決定もそうですが、一見たいへんな、デメリットもありそうな意思決定をなぜするのか、そこに何があるからその選択をするのか、といったことです。職業の意思決定に関して近年注目しているのが「楽しく働きたい」という欲求です。これにはいくつかのニュアンスがあり、単に「趣味の延長で、遊び感覚で」という意味とは限らない、「手応え、やりがい」であるとか、職場環境・人間関係の面であるとか、いくつかの意味があるようです。この「楽しく働く」という期待の意味を明らかにしていくことで、なぜあれだけ大変だと言われている教職を職業に選ぶといったこと、あるいは適切な時期が過ぎても決められない人がいるのかといったことを解明できると思っています。</p>
	
<p>若松 養亮 Yosuke Wakamatsu</p>	
<p>教育学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略歴 ・1986年 東北大学教育学部 卒業 ・1994年 東北大学大学院 教育学研究科 博士課程後期 3年の課程 単位取得退学 ・1995年 滋賀大学講師 ・1997年 オハイオ州立大学 visiting scholar ・1999年 滋賀大学助教授 ・2010年 同・教授 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会 ・日本教育心理学会 ・日本青年心理学会 ・日本キャリア教育学会 ・日本心理学会 ・日本発達心理学会 ●学会での委員歴 ・学会誌編集委員長 (青年心理、キャリア教育) ・常任理事(同) ・事務局(青年心理) ・常任編集委員(教育心理) ●資格 学校心理士スーパーバイザー <p>【著作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリーターの心理学(2009) ・詳解 大学生のキャリアガイダンス論(2012) ・大学生におけるキャリア選択の遅延—そのメカニズムと支援—(2012) ・新・青年心理ハンドブック(2014) ・生涯発達の理論と支援(2020) 	
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>教育委員会の方からは講演や協力者会議の委員などを依頼されることが多く、そのようなことで貢献してきた経緯がありますが、今後は進路選択をする高校生や大学生の声が直接聴けるような場で、なにがしかのお手伝いをさせていただく機会をいただければ、私としてもたいへん勉強になる、Win-Winの関係がつけれるのではないかと考えています。</p>